Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう

静岡新聞

▲伊東マンショの肖像（イタリア・ミラノ、トリヴルツィオ財団蔵）

►伊東マンショの肖像のX線写真。左上にうっすらと「FIGENGA」の文字が見える

見えないものが見えるX線　絵画にも活用、新発見も

X線は電灯の光と同じ電磁波の一種で、強いエネルギーを持ち、物の中を通過しやすいのが特長です。医療分野で体内の状態を見るために使われますが、美術分野でも活用されており、思わぬ発見につながることもあります。

X線を絵画に当てると、X線が通った部分は黒く、通らない部分は白く映ります。その濃淡の程度で、絵の具の原料、かくれていた絵や文字など多くのものが見えてきます。

東京国立博物館（東京都台東区）で油絵の「伊東マンショの肖像」が公開中です。伊東は16世紀後半に九州からイタリアに向かった「天正遣欧少年使節」の1人で、この肖像画は現地の画家による作品です。担当者の瀬谷愛さんによると、X線で照射したところ、表面左上に「肥前」（FIGEN、現佐賀県、長崎県）と「日向」（FIUNGA、現宮崎県）を書きまちがえた「FIGENGA」などの文字が現れたほか、えりやぼうしがかきかえられていることが分かりました。

瀬谷さんは「X線写真は美術品の修復方法を決める参考になるだけでなく、制作過程も分かります。絵の具のぬり方などから、作品が本物かにせ物かも判断できます」と話しています。

2016年6月12日　朝刊　YOMOっと静岡

①X線にはどんな特長がありますか。

[　　]

②X線のおかげで、伊東マンショの肖像画から見えた文字を書きましょう。

[　　]

③X線を使って調べたいものを書きましょう。

[　　]

年　　組　　名前

（小学校高学年・中学校　理科）